【 浅川町 】

校務 DX 計画

当町は、1人1台端末の導入後、校務支援システムや授業支援アプリ等を活用して学びのデジタル化を進め、ペーパーレス化を目指した校務DXに取り組んでいる。

代表的な下記の取り組みのほか、文部科学省が定める「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」や福島県教育委員会が定める「教職員働き方改革アクションプラン」等を踏まえ、継続して校務DX化に向けた取り組みを進める。

1. 校務支援システムの導入とセキュリティ強化

- ・令和2年度から小学校、中学校において校務支援システムを導入しており、生徒の基本情報、出欠簿、年間指導計画等の電子化により、教育の情報化と教職員の業務効率化が図られている。電子的手続きはペーパーレス化や押印廃止にもつながり、教職員の負担軽減になっている。
- ・教育情報セキュリティポリシーの作成によりセキュリティ対策がなされているが、必要に応じて見直しを行う。
- ・令和7～8年度の校務支援システム更新に向けてクラウド化を予定しており、端末の入れ替えを行うことでパソコンのスペックを上げ、事務作業の効率化を図る。高性能なウイルス対策のほか情報漏洩した際に追及できるログ収集の機能を付加することで、セキュリティ強化がなされる。

2. ICT支援員の配置

- ・小学校、中学校にICT支援員を週1回程度配置し、校務の補助を行っている。タブレットを利用したICT授業を円滑に行うために、指導の補助・機器の操作・ネットワーク環境の整備等を行っており、児童生徒の授業支援や教職員の負担軽減につながっている。

3. ロイロノート導入によるペーパーレス化

- ・小学校、中学校においてタブレットに登録する学習支援ソフトであるロイロノートを導入しており、資料のデジタル化により授業や会議で使用する資料の印刷に要していた時間が短縮でき、教職員の負担軽減につながっている。紙や消耗品等の削減によりペーパーレス化を実現している。

4. BOX導入によるペーパーレス化と安全なデータのやりとり

- ・県が提供するFCSや容量無制限クラウドストレージサービスBOXの導入により、教育委員会と学校、学校間において、個人情報を含むデータを安全にやりとりできる環境を整備している。それらツールを活用した校内での文書や資料の共有も進んでいる。